

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課文化センター

会議名 第6回諏訪市文化センター運営検討委員会

開催日時 令和7年6月10日(火) 17時30分～19時10分

開催場所 諏訪市文化センター2階 第3集会室

出席者 【出席者】高見 俊樹委員長、石城 正志副委員長、中島 昌之委員、宮嶋 孝枝委員、木村 修子委員、河西 風花委員、花岡 日珠委員、金子 雄二委員、石田 名保子委員、山田 佳子委員、宮坂 寿子委員  
細野教育次長、小林課長、関沢館長、福田主査  
今井みどり教育委員(オブザーバー)

【欠席者】二村 悟委員、三澤 凜委員、牛越 雅紀委員

【傍聴者】一般 3名、新聞記者 3社

資料 資料①: 第6回諏訪市文化センター運営検討委員会 次第  
資料②: 第6回諏訪市文化センター運営検討委員会 説明資料  
別紙: 諏訪市文化センター運営検討委員会 令和6年度実施報告について  
別紙①: 「アオハル mini コンサート」アンケート結果  
参考資料①: 委員名簿  
参考資料②: 第5回諏訪市文化センター運営検討委員会 会議録

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

## 1、開会

## 2、教育長あいさつ

## 3、会議事項

(1) 令和6年度運営検討委員会のふりかえりについて

(2) 改修計画の全体像について

(3) トライアルイベント第2弾について

＜事務局より資料に基づき報告＞

## ＜質疑・意見＞

○委員長

・資料5ページのビジョン案は、対外的に発表されたものなのか、今後どうなっていくかを教えてほしい。

(事務局)

・第1回運営検討委員会で示した改修後のビジョン案は、市民説明会等で説明してきた案である。

・ブラッシュアップしたビジョン案は今初めて出させていただいた。引き続き、委員会の中で運営体制等も含めて議論を深めていく中で、さらにブラッシュアップさせていただきながら、委員の任期期間中(～令和8年7月頃)を目途に内容を固め、市民に公表できればと考えている。

○委員

・ビジョン案の基本理念について変更されているが、芸術文化の活動という部分に焦点を絞ったという認識でよい

か。

(事務局)

・委員会でご意見いただく中で、芸術文化の活動という部分が非常に重要なポイントだと理解しており、それが結果として駅周辺の魅力向上に繋がるというイメージを持っている。この点についても今後ご意見いただきたい。

○委員

・学校の活動はそもそも減免の対象ではなかったのか教えてほしい。

(事務局)

・市内の保育園・幼稚園、小・中学校の行事で使用する場合は減免の対象となっており、高校生は対象となっていない。

○委員

・減免の対象などは今後変更できる可能性があるのか。

(事務局)

・委員会の中でご意見をいただきながら、変更していくことを想定している。

○委員長

・今後、公民館を取り壊すとなると、文化エリアとしてのイメージが変わってくるかと思うが、見通しを教えてほしい。

(事務局)

・市で策定している公共施設等総合管理計画の中で、公民館を廃止していく方向性を示しているが、時期については未定である。公民館を廃止するにあたり、文化センターの集会室を増やすなど、ハード面で一部補完するスペースを改修の中で計画している。

・ソフト的な面としても文化ゾーンとして位置付けていくということが、ビジョン案にも反映されているということをご理解いただきたい。

#### (4)意見交換会について

##### <講師より講義>

##### <意見交換>

○委員

・文化センターで開催された木遣りの集いの良かった点をもう少し詳しく教えていただきたい。

(講師)

・ステージだけでなく、庭でもやっていた。ホワイエ、庭、劇場、すぐにセッティングできる環境と和風の建築が出す雰囲気などが面白いと感じた。

○委員長

・3月のイベントで、高校生が庭で遊んでいる光景がよかったという意見もあった。

○委員長

・近隣の文化会館で、よいと思う施設があれば教えていただきたい。

(講師)

・色々な価値軸があるということを前置きした上で、創造を中心とする運営がよいとする立場から言えば、茅野市民館は素晴らしい。また、いっぱいヒントもあるが、これではいけないというモデルではない。

・50年以上経過した建物を使って、専門的な創造ではない部分での施設のあり方を考えていくというのは面白い。

・そのほか、いわきアリオスは、市直営だが、運営に関してはアリオスコミュニティの中で、市民と職員が雑談できる関係性の中で、広報より広報が大事というスタンスから、施設の外で行う企画などが生まれていた。

○副委員長

・諏訪市文化センターは、専門家に相談できる体制となっていないが、茅野市民館では専門家スタッフを揃えてスタ

ートし、松本市芸術館には総合プロデューサーがいるようだが、どのような評価をされているか教えていただきたい。

(講師)

・前提として違ってよい。茅野市民館の場合、周辺にないものを目指す中で、現状の形になったと聞いている。それより、他館のスタッフと気軽に交流できる環境、それぞれの施設が広域の中で生き残りを図れるかが大事。諏訪市文化センターができなくて、茅野市民館にできることはあるが、その逆の状況もあり得る。

○委員長

・過去には諏訪市が主催する芸術祭をカノラホールをお借りして開催したことがあった。1回だけだが、とくに大きな反対もなかった。

○委員

・これまでの会議の中でも高校生が勉強できるスペースがあるとよいという意見があったが、ホワイエがいつでも居られるような場所になればよいと感じている。高校生がいることで流行る場所についてどうお考えか。

(講師)

・高校生は時間をもっているけど使えるお金は少ない。居られる場所は、まちの奥行きが現れる。

○委員

・ホールに注視すると、文化財であるからこそその悩みが多い。反響板を設置できないから音楽ホールとしては他館に及ばず、座席は自由に動かせないから茅野市民館のような汎用性はないというのが現状ではないだろうか。

・庭を含めたコミュニティスペースとして活用で考えればよいかもしれないが、ホールに携わる者としては物足りなさを感じる。では、ホールをどのように活用していけばよいか教えていただきたい。

(講師)

・文化財的な制約は分からないが、ハードの視点から考えるならば、もともとは集会場であるので、居心地のよい場所にするのが一番ではないかと考える。集会場として座席や音響などの現代的な技法でクオリティを高めることで、建物の良さに繋がるだろう。

○副委員長

・設計者の吉田五十八は、歌舞伎など伝統芸能ができるように設計しており、演者の方からは響かないから声が通りやすく、逆に反響が良すぎる施設では何を言っているか聞かえず、伝統芸能や演劇には向いていない。だから、このホールの特徴を活かした活用をしていけばよいと考える。

・また、改修後は練習などの日常使いのスペースが併設されたホールとなる計画されているので、図書館や庭と合わせて、どう活かしていくかということを考えるべきである。

(講師)

・集会場として居心地のよい環境を整えるため現代的なアップデートはしていったほうがよい。伝統芸能との相性を体験したことはないが、木遣りのイベントが心地よかったのもホールの特徴と関係しているかもしれないので、ホールの特徴を活かした活用を考えていくほうがよいだろう。

#### 4、その他

(事務局)

・次回の運営検討委員会は、8月頃を予定している。

・日程と内容については、事務局で調整をさせていただいた上で、別途通知させていただく。

・会議資料についても、事前に送付させていただくので、ご覧いただいた上で次回の委員会に出席いただければと思う。

・6月22日に緞帳の公開イベントを開催するのでぜひお越しいただきたい。

#### 5、閉会